

なかの
中野 しょうよう
逍遙(1867~1894)



漢詩人。宇和島城下(現、宇和島市)出身。本名は重太郎。愛媛県立南予中学校(現、県立宇和島東高等学校)を卒業後に上京して帝国大学文科大学(現、東京大学)漢学科に進学し、ドイツの詩人・シラーや中国唐の時代の詩人・杜甫らを研究した。一方、歌人・佐佐木信綱と親交を結び、自ら漢詩にも取り組んだ。しかし、さらに研究を深めようとした矢先の明治27(1894)年、急性肺炎のためにわずか28歳で逝去した。

逍遙の死後、その死を惜しんだ友人と恩師が、一周忌に『逍遙遺稿』を出版、この遺稿には、逍遙が中学から大学時代の約10年間に作った漢詩などが収録され、情熱的な恋心をロマンチックに表現した漢詩が数多くみられ、高い評価を受けた。

正岡子規は、激情家で一途な逍遙を「多情多恨」と評した。情熱的で自由奔放な恋心を歌い込んだ逍遙の詩風は、島崎藤村や

吉井勇ら日本を代表する詩人や歌人に大きな影響を与えた。

略歴

- 慶応3(1867)年2月11日 宇和島城下の賀古町に、中野五郎と鴻の長男として生まれる。
- 明治16(1883)年8月 愛媛県立南予中学校を卒業。東京に出る。
- 明治17(1884)年7月 東京大学予備門(現、東京大学)に入学。正岡子規、夏目漱石と知り合う。
- 明治23(1890)年7月 予備門から改組された第一高等中学校を卒業
- 9月 帝国大学文科大学漢学科に入学。在学中、佐佐木信綱と親交を深める。
- 明治27(1894)年7月 漢学科の第1回卒業生3人のうちの一人として卒業。卒業後は研究科に進み、執筆活動なども行う。
- 11月16日 将来を期待されながら、東京府駿河台(現、東京都千代田区)の山竜堂病院において、急性肺炎のため28歳で永眠。墓所は宇和島市妙典寺前の光国寺

(写真提供：宇和島市立中央図書館)

〈関連図書〉

- ・中野逍遙『逍遙遺稿』 岩波書店 1929年
- ・宇和島市誌編さん委員会『宇和島市誌』 宇和島市 1974年
- ・和田茂樹『愛媛文化双書36 子規と周辺の人々』 愛媛文化双書刊行会 1983年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 文学』 愛媛県 1984年
- ・青木善嵩他『日本現代詩大系 第2巻』 檸檬社 1988年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・『発掘えひめ人—近代を拓いた101人—』 愛媛新聞社 2002年

〈ゆかりのある場所〉…(P303, 157)